

舞鶴引揚記念館 令和元年度第2回企画展

【追加資料】ウズベキスタン抑留～抑留から交流へ～

舞鶴引揚記念館で7月13日から開催される企画展において新たに展示資料を追加することとなりましたのでお知らせいたします。

1 経過

ウズベキスタン抑留体験者が現地の人より譲りうけたタバコケースと体験を記した手記をお借りして展示することとなりました。ウズベキスタン抑留を体験された大塚武氏（平成 27 年 6 月 25 日逝去）が所有していたもので、現在は長女の大塚恵子氏が保管しています。

この度の展示は、日本ウズベキスタン協会の協力を得て実現したものです。

2 資料について

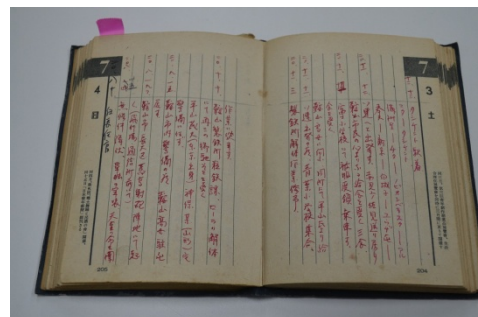
- タバコケース：タシケントに抑留中、ナヴォイ劇場の建設の際、電気の配線の工事に携わり、その時同僚だったウズベク人の“リョニャン”から日本に帰還する前にもらったもの。
- 手記：昭和 18 年（1943）製の日記帳に、抑留される直前から帰国までの様子を時系列に記した手記。手記を記した時期は不明。

3 場所 舞鶴引揚記念館 企画絵画展示室（企画展は無料。別途入館料が必要です）

4 資料画像



タバコケース



手記

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370

E - M a i l : [hikiage@city.maizuru.lg.jp](mailto:hikiage@city.maizuru.lg.jp)

## 5 -大塚武（おおつか たけし）氏略歴-

大正 15 年（1926）2 月 10 日 東京都豊島区生まれ  
昭和 19 年（1944）4 月 20 日 中部第 130 部隊に志願して入隊  
昭和 20 年（1945）12 月 13 日 ウズベキスタンに連行される

タシケントの第 4 ラーゲル収容中にナヴォイ劇場の建設に携わる。同劇場の落成式にも出席し、バレエを鑑賞した。

1980 年代後半に巖信彦氏がラジオでウズベキスタン協会への入会をウズベキスタン抑留体験者に呼びかけたことを知って同協会に入会。

昭和 23 年（1948）7 月 12 日 恵山丸で舞鶴に帰還  
平成 27 年（2015）6 月 15 日 逝去 89 歳

## 6 その他

-長女・大塚恵子氏からのコメント-

父親の抑留体験について、自分からじっくりと聞いたことはありませんが、亡くなる前に一緒にウズベキスタンを旅したことが思い出に残ってます。ウズベキスタン人との労働は、上下関係ではなく、一緒に働く仲間という感覚だったようです。

父の資料を通じて、ウズベキスタン抑留の様子や交流もあったことなどを知ってもらえる機会となればと思います。

また、日記にもあるように、舞鶴の温かいお迎えは心に残ったようです。13 年間も続けられたことも本当にすごいことです。

企画展で、歴史や当時の人の想いを若い世代にも繋げていってもらえるよう願っています。

---

### 【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370  
E - M a i l : hikiage@city.maizuru.lg.jp